

企業景況・動向調査

●はじめに

取引先を対象に、当地区企業の景況・動向調査を目的としたアンケートを実施した。概要は以下の通り。

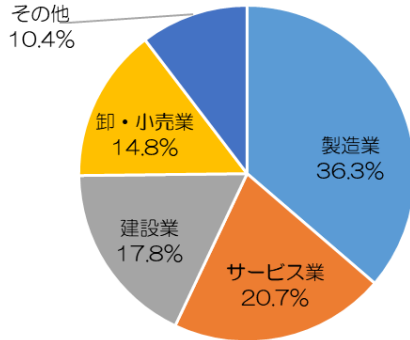
●調査概要

調査時期 : 令和6年1月23日(火)

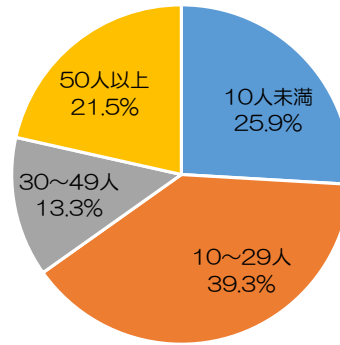
調査対象 : せいしんビジネスクラブ会員

回答数 : 対象企業数 169社 回答数 135社 有効回答率 : 79.8%

《業種内訳 (n=135)》



《従業員規模内訳 (n=135)》



●要旨

～ 2024年上半期、売上高は4割弱の企業が「増加」を見込み、
経常利益は8割弱が黒字確保を見通す～

～ 雇用状況は「不足」が過半数を超え、人手不足が深刻化
今後の経営課題は「人材の確保・育成」とし、人材採用を強化～

◆ 売上高実績と見通しについて

- 売上高実績 (2023年7月~12月) は、「増加」が31.1%、「減少」は28.9%となった。
- 売上高見通し (2024年1月~6月) は、「増加 (37.8%)」、「横ばい (45.2%)」が上昇、「減少 (17.0%)」が低下した。

◆ 経常利益実績と見通しについて

- 経常利益実績 (2023年7月~12月) は、「黒字」が67.7%となった。
- 経常利益見通し (2024年1月~6月) は、「黒字」が79.7%と、現状を上回る見通しとなった。

◆ 雇用状況・採用予定について

- 現在の雇用状況は、「過剰」が7.5%、「適正」が35.8%に対し、「不足」が56.7%と過半数を超えた。特に製造業と建設業では「不足」と回答する企業が6割を超えている。
- 採用については、新卒・中途・非正規のいずれの採用予定も前回調査より増加した。人手不足感の高まりから採用活動は積極化していることが窺える。

◆ 設備投資について

- 現在の設備状況は、「不足」は40.0%と前回調査から8.8ポイント上昇しており、設備不足感が高まっている。

◆ 今後の懸念材料について

- 今後の懸念材料は、「人材の確保」が68.1%で最多となり、次いで「人材の育成」(45.9%)、「燃料・原材料、仕入価格の変動」(36.3%)となった。

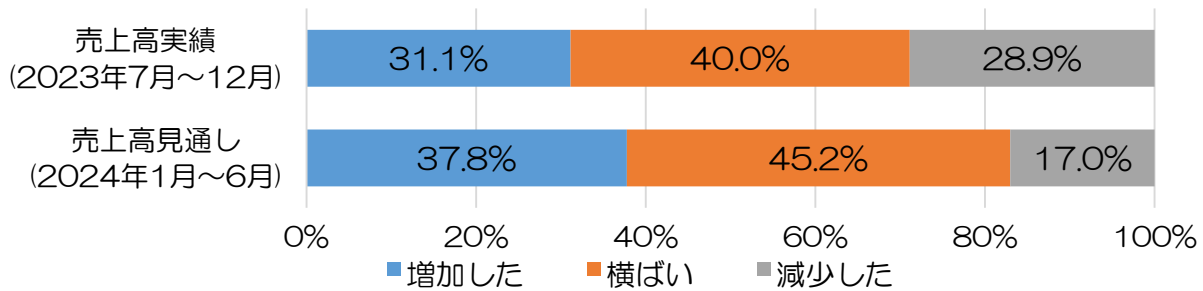
◆ 2024年において重視する経営課題について

- 2024年に重視する経営課題は、「人材の確保・育成」が66.7%で最多となり、次いで「新規顧客・販路の開拓」(40.0%)、「コスト削減・業務効率化」(35.6%)となった。

※本アンケートの数値は小数点第二位を四捨五入しております。

Copyright (C) 2024 THE SEISHIN SHINKIN BANK. All Rights Reserved.

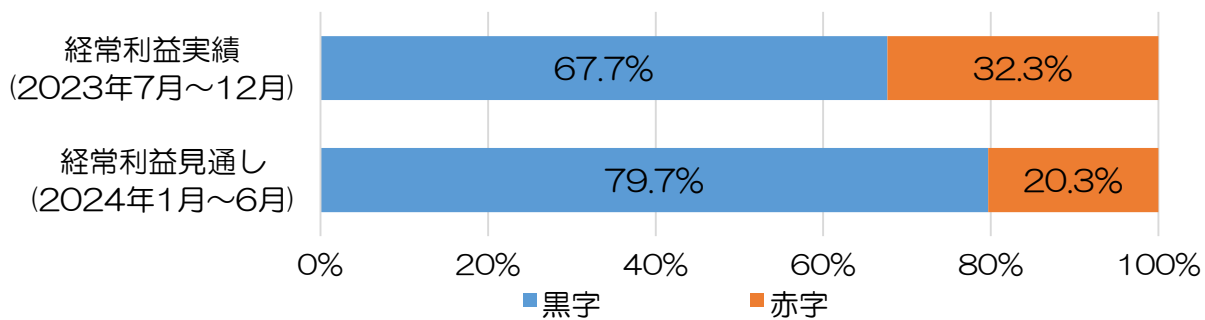
1. 売上高実績と今後の見通しについて (SA)



売上高実績と今後の見通しについて尋ねたところ、2023年7月～12月の売上高実績（2023年1月～6月対比）は、「横ばい」（40.0%）が最多となり、次いで「増加」（31.1%）となった。

2024年1月～6月の見通しについては、「増加」が37.8%と6.7ポイント、「横ばい」が45.2%と5.2ポイント上昇し、「減少」（17.0%）と11.9ポイント低下した。

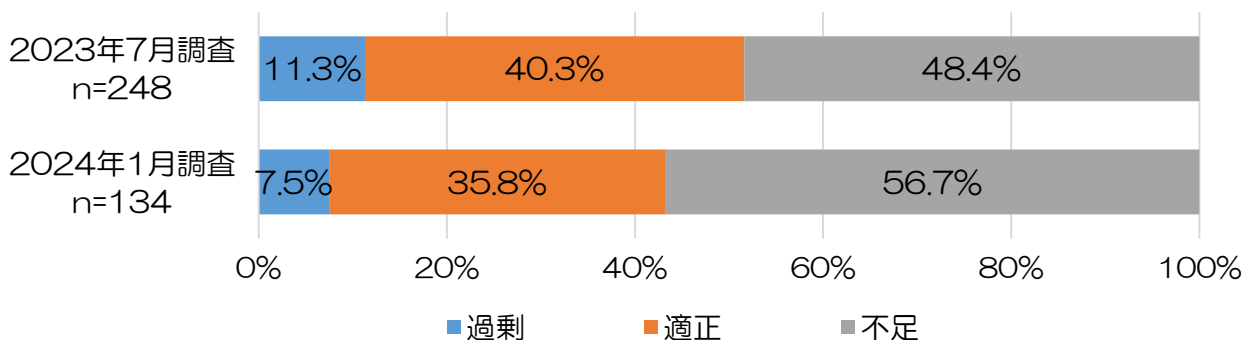
2. 経常利益実績と今後の見通しについて (SA)



経常利益実績と今後の見通しについて尋ねたところ、2023年7月～12月実績は、「黒字」が67.7%となった。2024年1月～6月の見通しについては、「黒字」が79.7%と、実績を12.0ポイント上回った。

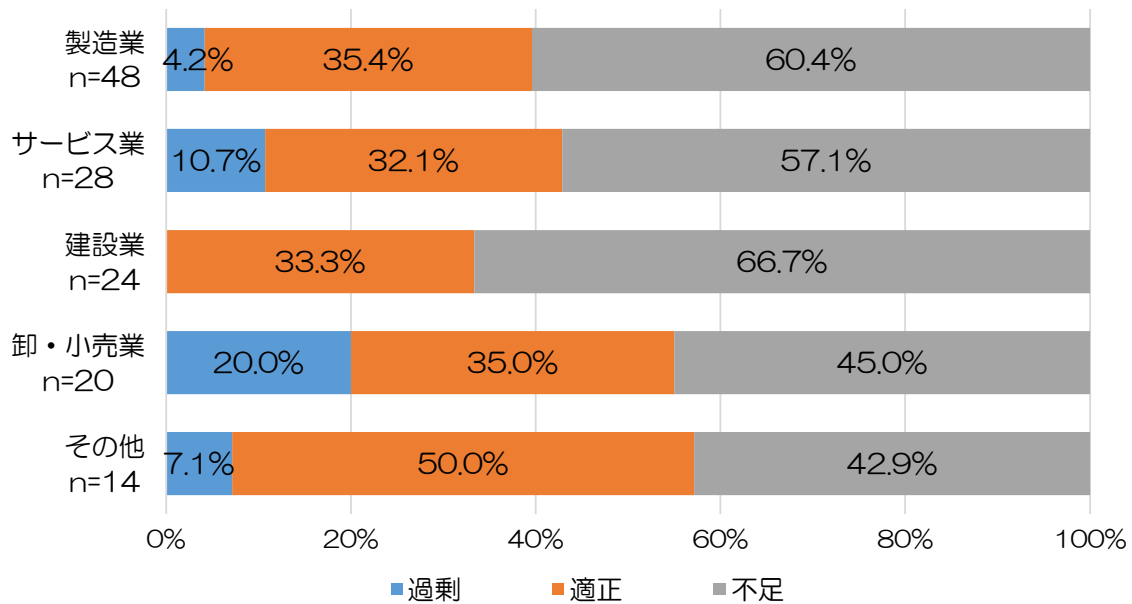
3. 雇用状況について

3-1. 現在の雇用状況について (SA)



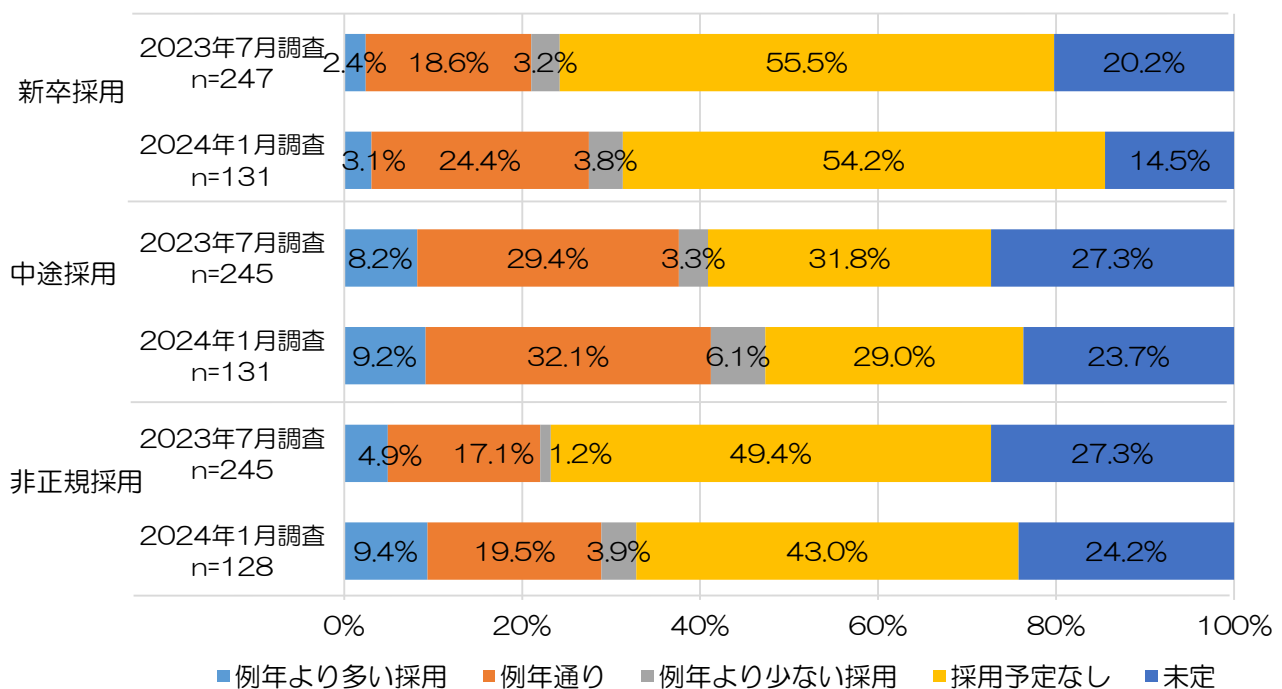
現在の雇用状況を尋ねたところ、「不足」が56.7%で最多となり、次いで「適正」（35.8%）、「過剰」（7.5%）となった。前回調査より、「不足」は8.3ポイント上昇し、人手不足感が高まっていることが窺える。

【業種別】現在の雇用状況について



現在の雇用状況を業種別に見ると、製造業、サービス業、建設業、卸・小売業で「不足」と回答する企業が最も多い。特に、製造業と建設業では「不足」と回答する企業が6割を超えており、人手不足が深刻化していることが分かる。

3-2. 今年の採用予定について (SA)



今年の採用予定について尋ねたところ、新卒採用については、「採用予定なし」が54.2%で最多となり、次いで「例年通り」(24.4%)、「未定」(14.5%)の順となった。新卒を採用する予定の企業(「例年より多い採用」、「例年通り」、「例年より少ない採用」の合計)は31.3%と、前回調査(24.2%)から7.1ポイント上昇した。

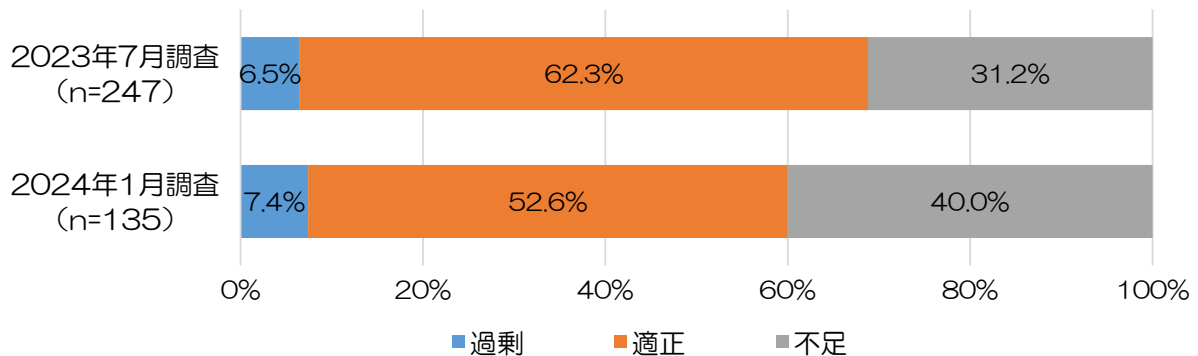
中途採用については「例年通り」が32.1%で最多となり、次いで「採用予定なし」(29.0%)、「未定」(23.7%)の順となった。中途を採用する予定の企業(「例年より多い採用」、「例年通り」、「例年より少ない採用」の合計)は47.4%と、前回調査(40.9%)から6.5ポイント上昇した。

非正規採用については「採用予定なし」(43.0%)が最多となり、次いで「未定」(24.2%)、「例年通り」(19.5%)の順となった。非正規を採用する予定の企業(「例年より多い採用」、「例年通り」、「例年より少ない採用」の合計)は32.8%と、前回調査(23.2%)から9.6ポイント上昇した。

採用については、新卒、中途、非正規のいずれの採用予定も前回調査から増加しており、採用活動を積極化している状況が窺える。

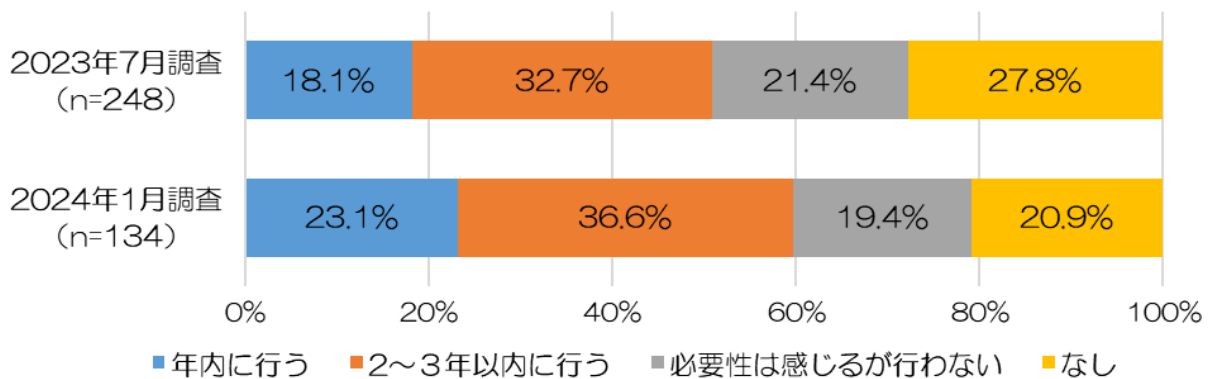
4. 設備投資について

4-1. 現在の設備状況について (SA)



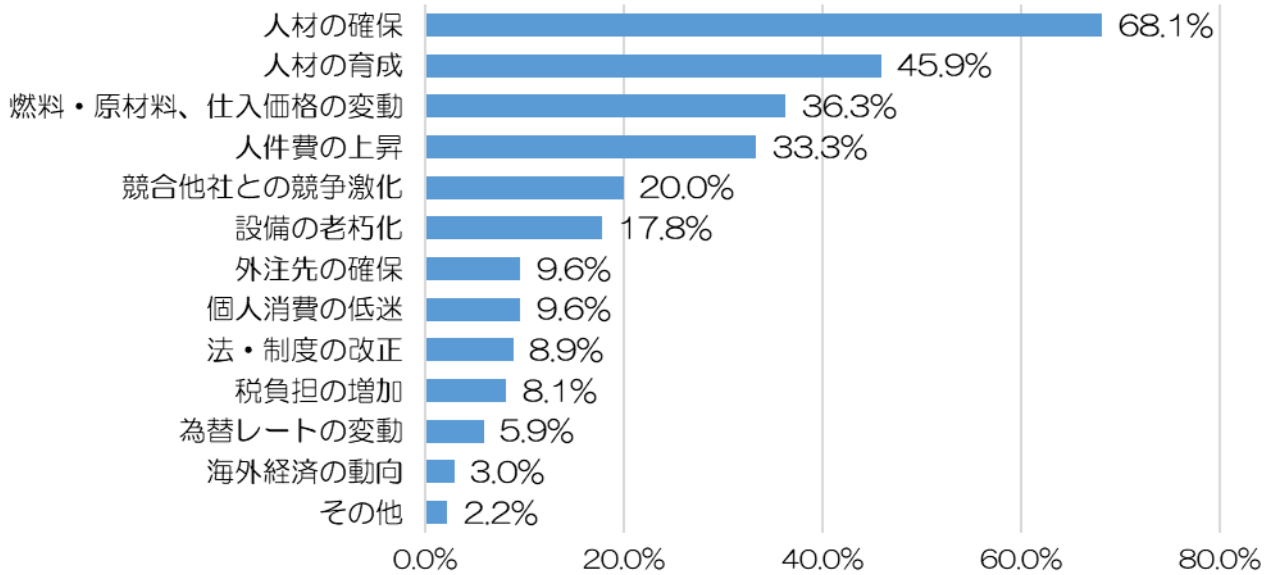
現在の設備状況について尋ねたところ、「適正」が52.6%で最多となり、次いで「不足」(40.0%)となった。前回調査と比べ、「不足」が40.0%と前回調査から8.8ポイント上昇した。設備の不足感が高まっていることが窺える。

4-2. 今後の設備投資の予定について (SA)



今後の設備投資の予定について尋ねたところ、「年内に行う」は23.1%と、前回調査から5.0ポイント上昇し、「2~3年以内に行う」は36.6%と3.9ポイント上昇した。「なし」は20.9%と6.9ポイント低下した。企業の設備投資意欲は増進傾向にあり、「年内に行う」、「2~3年以内に行う」とする先の合計59.7%と、前問の「4-1. 現在の設備状況について」で「不足(40.0%)」と回答した企業を上回っており、「適正(52.6%)」な企業でも、更なる設備投資を検討していることが窺える。

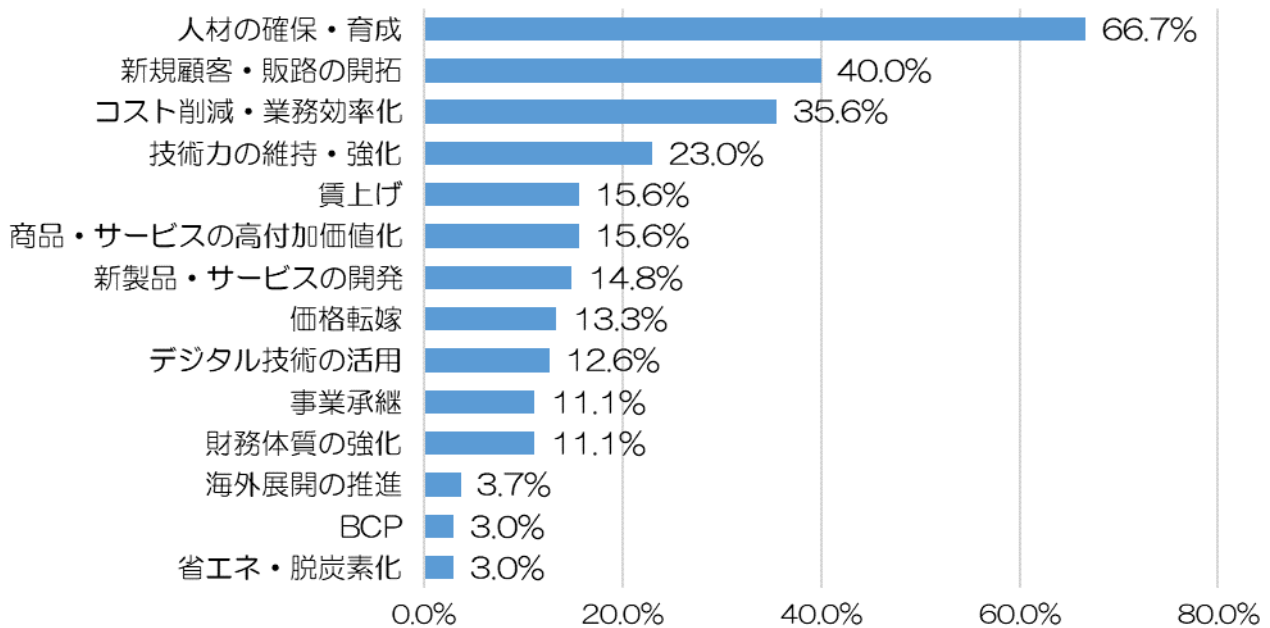
5. 今後の懸念材料について (MA 3 つまで、n=135)



今後の懸念材料について尋ねたところ、「人材の確保」が 68.1%で最多となり、次いで「人材の育成」(45.9%)、「燃料・原材料、仕入価格の変動」(36.3%)の順となった。

人材の確保・育成、人件費の上昇など、「人」に関する項目が最も懸念されている。また、原材料・仕入価格のさらなる高騰を警戒する様子が窺える。

6. 2024年において重視する経営課題について (MA 3 つまで、n=135)



2024年に重視する経営課題を尋ねたところ、「人材の確保・育成」が 66.7%となり、次いで「新規顧客・販路の開拓」が 40.0%、「コスト削減・業務効率化」が 35.6%の順となった。

今後の懸念材料と同様に「人材の確保・育成」が課題として挙げられている。

以上

(静清信用金庫 経営相談部 令和6年2月作成)